主題科目「平和と人権」の自己点検

川　北　　稔（愛知教育大学教育実践総合センター）

Student's Evaluation and Teacher's Self Examination for the Subject "Peace and Human Rights"

Minoru KAWAKITA（Center for Research, Training and Guidance in Education Practice, Aichi University of Education）

要約　愛知教育大学における共通科目の1つ，主題科目「平和と人権」に関する学生の授業評価結果を振り返る。授業評価の結果からは，学生による主体的な調査研究を前提とした授業であることを反映して，自主学習など積極的なかかわりが強い科目であることが明らかになった。他方で，「入門」「展開」「セミナー」の連続性や体系性，グループ運営やディスカッションの活発化など課題も残されている。主体的な学びの力の養成が必要とされるなか，「平和と人権」の成果は，ひとつのモデルとして検討に値する。

Keywords：平和と人権，共通科目，主体的な学び

１．主題科目「平和と人権」の概要

「平和と人権」は，愛知教育大学の共通科目「基礎科目」「主題科目」のなかで，後者に位置づけられている。戦争と平和，人権や差別に関する問題について，受講生自らテーマを選択し，調査する授業である。「平和と人権」を学ぶにあたっては，単なる受動的な学習では十分ではない。文化や価値観の多様性，対立や協調を含む社会的現実を踏まえて，客観的な根拠をもとに冷静に議論したり，他者に対して主体的に関わったりすることが必要だと考えられる。そのため，他者とのコミュニケーション能力を身につけることが重視されている。

１年生の「入門」では，５人程度でグループをつくり，大学外の対象者にアプローチし，調査を行う。成果は，学年全体での発表会で披露する。２年生の「展開」は講義形式で，教員側からの問題提起の機会である。学生だけでは気づき得ないようなテーマや手法が投げかけられ，それを受けて，３年生の「セミナー」では，より高度な問題意識と手法による調査研究が進められることが期待される。

７つの主題科目が用意されているなかで，「平和と人権」を第１希望とする学生は多くない。2007年度の１年生の希望状況は946名中の50名であり，第７位であった。人数調整の結果，106名が受講しているが，第２希望以下の学生が半数を占めている。

担当する教員は12人（2007年度）であり，比較的小規模のグループである。それゆえ全員が授業を担当し，学習のサポートに当たっている。

このように受講生や教員の数は少ないグループである。その一方で「平和と人権」は，学生を対象とした授業評価調査の結果を見る限り，授業への積極的な参加や，学生側の学習時間の長さなど，主体的なかかわりが強い科目といえる（結果の詳細は次節）。学生自身による調査と発表を取り入れた授業であるために，授業時間以外にも確実に学習が行われるためであろう。また，授業から得るものがあり，満足しているという回答の割合も高い。こうした結果の背景として，比較的少人数のクラス編成であることも大きく関連していると思われる。

現在，初年次教育の必要性も議論されている。「平和と人権」では自ら「調べて発表する」授業が，比較的少人数の受講生で実践されている。その成果と課題を検討することは，教養教育全体にとっても意味のあることだろう。

２．調査結果（2001年度～2004年度）の概観

以下では，過去の『教養と教育』に掲載された，授業改善のための調査報告（共通科目専門委員会 2001, 2002, 2003：共通科目専門委員会授業改善・成績評価専門部会 2004）から，2001年から2004年まで４年分の授業評価の調査結果を振り返ることにする（結果の一覧は表１を参照のこと）。

なお，2000年の調査については「平和と人権」独自の分析はなく，2005年以降の調査結果は『教養と教育』に掲載されていない。

2007年には愛知教育大学教育創造センターにより，授業開始後第８週と第14週の２回，専門科目と共通のフォーマットで調査が行われている。2004年までの調査と設問などが異なるため，直接比較することは難しいが，前期の結果を一部紹介する（結果は教育創造センターのウェブサイトに掲載されている）。

問Ⅰ　授業に求めたもの

学生が授業に求めたものとして，回答が多い順に「幅広い知識の獲得」「現代的課題意識の形成」「知的刺激」となっている。

年度や学年ごとの違いは大きくないが，３年生の「セミナー」において「知的刺激」への期待がやや高くなっている。

2007年度にはどの項目も回答の率が低くなっている（実際に得られたものについて回答）。

問Ⅱ　授業に積極的に参加したか

いずれの年度，学年でも「はい」という回答が８割以上に上っている。特に「セミナー」では90%台後半に達している。学生自身が自らの関心に基づいて調査を行う「セミナー」では，主体的なかかわりの度合いが強くなっているものと思われる。

2007年度は「問3　この授業を意欲的に受講した」に，「強くそう思う」「ややそう思う」という回答が合わせて82.8%とやや低くなっている。

問Ⅲ　得るものがあったか

いずれの年度，学年でも「はい」という回答が９割以上である。特に「セミナー」は100%に達する年度もある。他方で，「展開」は若干低い評価となっている。

2007年度は「問１　この授業で，新しい考え方や知識・技能が身についた」に，肯定的な回答が94.9%であり，過去のデータと大きな変化はない。

問Ⅳ　触発されて自分で調べたりしたか

この質問も，問ⅡやⅢと同様の傾向がみられる。つまり，主体的な調査が前提となる「セミナー」で「はい」の回答が高くなっている。

「入門」は2001年度と2002年度の差が大きく，2001年度は「はい」の回答が65.7％と低い。

2007年度は「問２　授業に触発されて，自分で考えたり調べたりしている」に肯定的な回答は85.4%であり，過去のデータと大きな変化はない。

問Ⅴ　１回の授業あたりの学習時間

「セミナー」では，ほとんどの学生が１時間以上の学習を行っている。それに対して，「展開」は２割～４割程度の学生が「学習時間ゼロ」となっている。

「入門」は前項と同じく2001年度で「ゼロ」が51.4%と，主体的な学習の度合いが低い。

2007年度のデータも大きな変化は見られない。

問Ⅵ　授業のよかった点

授業の形式を反映し，「セミナー」では「学生による調査・発表」を評価する意見が80%以上に上る。それに次いで「教員と学生の質疑応答」「教員の講義」が評価されている。「展開」では「教員の講義」を評価する意見が多く，50%から60%ほどである。

「入門」で評価される項目は2001年度が「教員の講義」がトップであるのに対し，2002年度は「学生による調査・発表」になっており，授業内容の変化をうかがわせる。

問Ⅶ　学生の満足度

「展開」「セミナー」では，「満足」「やや満足」を合わせると90%に達している。特に「セミナー」の満足度が高い。

「入門」は2001年度に比べると2002年度の評価が低く，学生の主体的なかかわりが強まった授業内容に対して，評価が追い付いていないことをうかがわせる。

問Ⅷ　シラバスの目標達成

質問された年度が限られているが，「達成された」「やや達成された」を合わせるとほぼ90%の学生が達成されたと考えている。

2007年度の調査は，「この授業の教育目標が達成できた」という問いに，肯定的な回答は85.4%である。

以上をまとめると，学生による主体的な調査研究が求められる「セミナー」では，積極的な授業への参加が見られ，満足度も高い。他方で「展開」では講義形式を取り入れているため，こうした点への評価は「セミナー」よりやや下がる。

「入門」は年度による差が大きい。初年次教育の必要も唱えられる現在，主体的なかかわりを求める授業へと学生を導くため，今後も授業内容の工夫やその自己点検が必要になっていると思われる。

３．「平和と人権」の改善に向けて

過去の調査報告で挙げられている改善点を振り返る。

- 2001年度　「入門」の授業内容が，一人一コマのオムニバス形式であったため，「教員の講義」への評価が高い。反面，自学自習時間の少なさを指摘し，授業から「考えさせられたこと」を発展させる術が検討課題となっている（共通科目専門委員会 2002: 126）。
- 2002年度　学生からの改善希望を取り上げている。この年の「入門」が積極的な学びを求める授業内容に変化したことを受けてであろうが，授業時間外の学習が求められることへの不満，過重負担への不満のように，主体的な関与が求められる授業内容への理解が進んでいないことがうかがえる。他方では，

学習意欲が十分に満たされなかったという，積極的に学びたいという学生からの不満もある。グループ学習の際の研究の進め方や，グループ運営に，教員側からの援助が必要という指摘もある（共通科目専門委員会 2003: 88）。

- 2003年度　学生からの改善要望は，前年度と共通している。負担感を訴える学生に対して，積極的な学生からの不満として，「発表に力を入れたにもかかわらず，他の学生の意見を聞ける時間や機会が十分でなく手応えを感じられなかった」（共通科目専門委員会 2004: 163）というように，ディスカッションの機会を確保してほしいという声もある。
- 2004年度　「展開」において自主的学習時間が少ないことを指摘し，講義形式の授業においては主体的な学習がみられないことが課題となっている（共通科目委員会授業改善・成績評価専門部会 2005: 137）。また，2004年度に新しく設けられた「入門・展開・セミナーのつながり」という項目について検討されている。３年生の「セミナー」終了時に「つながっていることによって，よく学ぶことができた」という回答が17.2%にとどまっていることから，「入門・展開・セミナー」の連続性や体系性が十分実現できていないことが示唆されている。

４．結語

「平和と人権」の授業評価報告を振り返ると，特に学生による主体的な調査研究を前提とした授業であることを反映して，学生の積極的なかかわりの度合いが強いことが明らかになった。この傾向は「セミナー」に強い。他方で，講義形式の「展開」での自主学習時間の少なさは課題である。ただし，「展開」は教員側の問題提起の時間であるから，積極的な参加の回答が低くなるのは当然ともいえる。その分，「授業のよかった点」として「教員の講義」のポイントが高い。要は，学生の積極的なかかわりの場面と，教員による知識や技法の伝達を，いかに有機的に組み合わせるかが問題なのである。ゆえに，一律に積極的な参加や授業外の学習時間のみを評価の基準にするのは早計であるといえよう。それに関連して，授業評価においても「入門」「展開」「セミナー」それぞれの特性に応じて，結果を検討することが必要である。2007年度の調査はこれらの結果を区別しない形式になったが，改善の余地があるといえる。

また，「セミナー」のような参加型の授業においても，学生側の努力と教員側のガイドをいかに組み合わせるかが課題である。不満を表す学生は，主体的な学びが要求されることに対して十分な理解が進んでいないと推測される。「自ら調べて書く」力を養う授業形式への理解をどう進めるかが課題であろう。また，積極的な学生は，一部の学生の消極性によってグループ研究が進まないことや，発表後の活発な議論や評価の少なさに不満を感じている。グループ運営やディスカッションをいかに活発化するか，教員側の援助も求められているといえよう。

以上のように，「平和と人権」は自ら調べて書き，発表するというプロセスの導入において，一定の成果を上げている。他方，残された課題もある。学生の積極的な参加と教員からの知識・技法の伝達を，いかに有機的に結び付けるか。また，調べた成果を評価し，発展させるディスカッションのあり方などである。こうした成果と課題は，教養教育において主体的な学びを実現するための，ひとつのモデルケースとして検討に値するだろう。

文献

共通科目委員会, 2001,「共通科目の授業改善のための調査報告」『教養と教育』第１号, 17-103.

共通科目委員会, 2002,「共通科目の授業改善のための調査報告　Ⅱ」『教養と教育』第２号, 111-177.

共通科目委員会, 2003,「共通科目の授業改善のための調査報告　Ⅲ」『教養と教育』第３号, 71-149.

共通科目委員会, 2004,「共通科目教育の現状と課題──共通科目の授業改善のための調査報告Ⅳ」『教養と教育』第４号, 137-201.

共通科目委員会授業改善・成績評価専門部会, 2005,「共通科目教育の現状と課題──共通科目の授業改善のための調査報告Ⅴ」『教養と教育』第５号, 101-181.

表1　平和と人権の授業評価データ（数字は％） 注

年度	2001	2002	2002	2003	2004	2002	2003	2004	2007
入門・展開・セミナーの別	入門	入門	展開	展開	展開	セミ	セミ	セミ	-
問Ⅰ　この授業に何を求めたか（複数回答）									
高校教育との連続性	2.9	2.5	3.6	5.1	1.7	1.3	2.0	0.0	1.7
専門の基礎	13.3	12.7	11.5	19.0	17.2	8.9	11.0	17.2	7.4
知的刺激	45.7	41.5	35.8	25.9	50.0	50.6	44.0	44.8	17.6
幅広い知識の獲得	60.0	53.4	55.8	62.0	46.6	72.2	59.0	44.8	19.8
実際的技能の習得	2.9	-	-	0.0	1.7	-	1.0	0.0	1.5
人格形成・人間性の育成	37.1	35.6	29.7	20.7	37.9	17.7	30.0	41.4	11.1
文化の共有・獲得	25.7	18.6	18.0	27.6	13.8	15.2	12.0	24.1	8.9
学問の基本的認識方法	0.0	-	-	1.7	12.1	-	3.0	10.3	5.4
現代的課題意識の形成	45.7	44.9	53.9	37.9	50.0	60.8	53.0	72.4	21.0
その他	-	-	-	1.7	-	-	1.0	0.0	-
問Ⅱ　授業に積極的に参加したか									
はい	88.6	94.9	93.3	86.2	98.3	96.2	97.0	96.6	82.8
いいえ	-	5.1	5.5	12.1	-	3.8	3.0	-	-
問Ⅲ　得るものがあったか									
はい	94.3	95.8	93.9	91.4	91.4	98.7	100.0	100.0	94.9
いいえ	-	4.2	6.1	8.6	-	1.3	0.0	-	-
問Ⅳ　触発されて自分で調べたりした									
はい	65.7	91.5	78.8	70.7	75.9	89.9	94.0	89.6	85.4
いいえ	-	8.5	21.2	27.6	-	10.1	6.0	-	-
問Ⅴ　１回の授業あたりの学習時間									
0時間	51.4	8.5	33.9	25.9	39.7	11.5	11.0	0.0	14.0
1時間	28.6	22.0	48.5	56.9	50.0	50.0	52.0	48.3	33.8
１～２時間	5.7	16.9	7.9	6.9	6.9	19.2	19.0	31.0	31.2
2時間以上	14.3	52.5	9.7	10.3	3.4	19.2	18.0	20.7	21.0
問Ⅵ　授業のよかった点（複数回答）									
教員の講義	94.3	22.9	66.7	60.3	58.6	15.2	28.0	17.2	-
教員と学生の質疑応答	-	16.9	26.7	13.8	27.6	12.7	27.0	27.6	-
学生による調査・発表	-	85.6	24.2	53.5	46.6	93.7	81.0	93.1	-
個々の学生への指導	5.7	7.6	10.9	1.7	1.7	7.6	11.0	3.4	-
その他	8.6	2.5	7.9	3.5	1.7	1.3	0.0	3.4	-
問Ⅶ　学生の満足度									
満足	74.3	38.1	47.3	43.1	55.2	51.3	46.0	58.6	-
やや満足	22.9	39.8	48.5	48.3	36.2	44.9	51.0	37.9	-
やや不満	0.0	12.7	3.0	6.9	5.2	3.8	2.0	3.4	-
不満	0.0	9.3	1.2	1.7	3.4	0.0	1.0	0.0	-
問Ⅷ　シラバスの目標達成									
達成	-	-	-	29.3	46.6	-	41.0	51.7	32.5
やや達成	-	-	-	60.3	44.8	-	56.0	41.4	52.9
あまり達成されず	-	-	-	8.6	5.2	-	2.0	6.9	1.9
達成されず	-	-	-	1.7	3.4	-	1.0	0.0	0.0

注　『教養と教育』第２号から第５号に掲載のデータ，および2007年度については教育創造センターウェブサイトから引用。数字はパーセント。データの掲載がないセルは「-」で示した。2007年度は設問が異なるので，それ以前のデータと直接比較はできない。また2007年度について「入門」「展開」「セミナー」の別は明らかでないが，回答者の学年は「展開」に相当する２年生が81人，「セミナー」に相当する３年生が71人，４年生が５人である。